

永田 實(高17)

註：楷書体の部分はプリントを引用して読んだ箇所。

丸ゴシック体の部分は時間がなく、説明を省いた箇所。

こんにちは。神高17回生の永田實です。14年間母校に勤め、百年史・110年誌の編纂をして、いまも校史に関わる史料・情報の収集・保存・公開に努力しています。定年退職して10年経ちますから、この頃はネクタイを締めることもなく、昨年10月姪の結婚式で付けたきりです。

今日は扇千景さんのご講演だったのですが、体調不良で、5月の予定だった私に回ってきました。先日(3/13)旦那さんの坂田藤十郎さんと「徹子の部屋」に出てこられて、ご自分の病気のこと話しておられましたが、お元気そうなので、安心しました。

私は20年以上、校史に関わってきましたので、聞いていただきたいテーマが色々あります。それらから前回1月のシニアクラブでアンケートを取らせていただき、今日はそのうち一中・県一・神高に関係するものをそれぞれ1つずつ、合せて3つを話させていただきます。

1テーマ20分ほどなのでうまく話ができるのかと思いますが、毎年1月に宮中で行われる「講書始」では3分野の専門家がそれぞれ15分ずつ、皇族を前にして合計45分ご進講をされるので、無理ではないと思います。ちょっとレベルが違いますが。

ちょうど朝ドラの「べっぴんさん」が終了間際です。あれも少し探れば校史、とくに一中の2回生が深く関わっていますが、今日は「べっぴんさん」は置いておきます。

① 校舎のライオン

時代順に古いものからでもいいのですが、神高に関するものからお話ししましょう。神高に関しては「サリマライズ」という愛唱歌の由来と現在の校舎にも残されているライオンの水飲みがそれぞれ19票と20票でほぼ同数でした。私は「サリマライズ」は「サリー・マレー」というのが正しいと思っているのですが、なぜそう思うのかも含めて「サリマライズ」はアメリカ・イギリス・南アフリカ・ロシアなど世界を舞台にするスケールの大きなテーマですが、「ライオン」の方が具体的な物でわかりやすいので、今回は「ライオン」にしておきましょう。

一中の校舎の南壁にライオンの像がありました。それを受け継いだ現在の校舎にも同じ位置にあります。県一の方がご存じないのは当然かも知れませんが、神高の卒業生でも聞いてみると、そんなものがあったのかという人が意外に多いのです。**(1)~2**が、その写真です。どうでしょう？覚えておられますか。これを「ライオンの水飲み」と呼んでいます。写真では水が流れていますが、普段は止められています。水道代が勿体ないからですが、それでは面白くないので、数年前から、5月の創立記念式典・文化祭の時には、栓をひねって流すようにしています。この水を手で汲んで飲むところから、「ライオンの水飲み」と呼ばれたのでしょうか、一中時代にグラウンドで汚れた足を流れる水の下で洗うので、「ライオンの足洗い」と言う方が正式だと思います。

随分前にたまたま、古い神戸高校新聞を見ていたら、他の学校にも「ライオンの水飲み」があることを見つけました。**(2)**の記事をご覧ください。元は城北高校という校名でしたが、今では高知小津高校という名前になり、校舎も建て替えられています。

こんなライオンの像は、全国の学校でも余りないものと思っていたのですが、意外に身近な学校にありました。神戸市内の長田高校です。**(3)**をご覧ください。

長田高校には知り合いの先生がいたり、息子が通っていたので、何度も行ったことがあります。私自身も電話で「神戸高校の永田です」と言っても、「えっ？ 長田高校のどちらさん？」と聞かれたりしました(笑)。そんなことで親しみを持っているのですが、そこにもライオンがいたというのは最近知りました。PTAの新聞に、校内に残る物の紹介特集があって、ひと気のない片隅にあるが「これは一体何なのでしょう」、その由来がわからない、不気味な雰囲気だとライオンにとっては気の毒な記述です。

私が長田高校に勤めていたら、その由来を調べてPRするのですが、部外者なので色々と聞いてみてわかりました。長田高校は市内の旧制中学を建て替えていくとき、星陵（四中）の次に建て替えられました。星陵・長田・兵庫と西から順に建て替えられて、最後が神戸でした。

最近改築されたのですが、以前の長田高校には中庭がありました。その中庭に昭和 30 年代、卒業記念の池を掘り、その池に水を貯めるときにこのライオンの口から水が出されたのです。建て替えのとき、池はなくなり、用済みになったライオンは、正門を入れて塀に沿って 30~40m 右手（北）へ行き、その塀に沿った場所にポツンとライオンだけが移されたのです。このライオンの口から、今は水も何も出ません。ため息ぐらいは出しているかも知れません。その点、神高のは水が出て現役です。このような保存方法を動態保存と言います。町なかで蒸気機関車を見ることがあります。たとえば、神戸駅の南東や王子動物園の中にありますが、動かさずに置いてあるだけです。置いておくだけでなく、実際に動かして保存するのを動態保存と言います。神高の校舎も保存された部分については、動態保存だといえます。私も動態保存の年齢になってきました（笑）。

このライオンの水飲みは何に由来するのでしょうか。ライオンの頭をデザインとして利用することはそれほど珍しいことではありません。私が以前住んでいた町内では、30 年ほど前に新築一戸建てが次々建てられましたが、その家の門扉のノブ、ツマミは、ライオンがはやっていました。ただ、その口から水が出る、いわゆる「ライオンの水飲み」につながるヒントは東京在住の植村達男さん（高 12）が教えて下さいました。それが**（４）**の「馬水槽」です。

（４）- 1 の下の説明を読んでみます。ロンドンの協会から寄贈されたとかで、全体の高さは 2 m はあるでしょうか。馬の首が届く場所の水槽が馬用、その下の小さな水槽が犬猫用です。この写真では写っていませんが、この円筒状のものの裏側には、人間用の小さな蛇口もあります。なかなかよくできた施設です。

馬水槽という名前からわかるように、明治に入って重要な移動手段だった馬車の馬に水を補給する装置でした。私は大学時代、馬術部だったので知っていますが、馬場にはこれとよく似た水槽がありました。練習が終った馬をその水槽の所に連れて行って、まず水をやります。夏だとバケツ一杯分ぐらいの水を飲みます。馬には大事なものです。ただ、夏の暑い頃には男子部員のなかに、この水槽に入って横になり、涼むのがいました。ちょうど人間が横になるのにいい大きさです。

今も J R 新宿駅の東口のライオン広場にあります。この像の反対側には、大きなライオンの首があって、ライオンの口は貯金箱に通じています。ライオンズクラブが設置したもので、その口から入れたお金は貯められて募金とされているようです。私も、植村さんから教えられてさがしたとき、詳しい場所がわからなくて、新宿駅の駅員さんに聞いたところ、このライオンズクラブの貯金箱ライオンの方を教えてくださいました。馬水槽の方は、余り有名ではないようです。

先ほど、蛇口といいましたが、ヨーロッパの水の出口はライオンなのですが、日本の水の出口はなぜライオン口ではなくて蛇口なのでしょう。神戸市兵庫区に「水の科学博物館」があります。その 2 階に行くと、明治初期の上水道の蛇口の原型の展示があります。屋外に置かれた水道の共同栓ですが、水の出口は竜の口になっています。日本は中国文化圏で、ヨーロッパでは権威の象徴はライオンだったのに対して、日本の権威の象徴は竜で、「竜口」が転じて「蛇口」になったようです。

ところで、なぜ一中の校舎にライオンの水飲みが置かれたのか。一中校舎を設計された神田（こゝろ）省三さんの晩年、校舎についてインタビューしたことがあります。ちなみに神田と書いて「こゝろ」と読む苗字は兵庫の津の旧家です。その神田さんに、校舎が城のイメージのデザインになったのかを中心に色々とお聞きしました。そのときには、ライオンのことまで気が回らなかったもので、お聞きしませんでした。ですから、私の推測ですが、昭和の初めに阪神間のお屋敷にこのようなライオンの水飲みというのか噴水のようなデザインがはやっていたのではないのでしょうか。神田さんはそのような市販されている物を使って、校舎の壁を飾ったというのが実情だと思います。

② 皇女和宮像の変遷

2 番目のテーマは皇女和宮像です。アンケートでは県一関係の最高得票は「県一卒業生の二世たち、池澤夏樹と高村薫」が 15 票、和宮像は 9 票でした。池澤夏樹と高村薫の方が多かったのですが、県一のかたは和宮像と書道の安東聖空先生・西谷卯木先生を選んでおられました。県一のかたは絶対数が少ないのですが、ここでは県一のかたの意向を優先して、和宮像にさせていただきました。

アンケートでお聞きした「田中銀之助先生と八木真平先生」の項目にも 6 票入っていたのですが、それは**プリント 4 ページ**で取り上げておきました。今日は欠席ですが、同期の瀬戸本淳さんが、今年の 1 月から『神戸っ子』で連載中の「神戸秘話」というシリーズ第 1 号に載せたものです。あとをご覧ください。

高校卒業の方は余りご存じないと思うので、和宮がどんな女性だったかを、まず見ておきましょう。近世（江戸時代）の女性で、日本史の教科書 19 冊全部に出てくるのは和宮ただ一人です。同じ時代の有名な女性としては出雲の阿国や津田梅子などがいますが、阿国は生没年不詳の人物で全部の教科書には出ていませんし、津田梅子も江戸時代の人物ではなくて明治になってからの人物で、やはり全部の教科書には出ていません。いま NHK 大河ドラマの主人公になっている井伊直虎に至っては、男性だったという説もあります。その点、和宮は正真正銘、日本史上で大きな役割を果たした女性だったといえます。**プリント②の上の説明文**をご覧ください。

皇女和宮（静寛院宮）は、仁孝天皇の第 8 皇女で孝明天皇の妹。……幕府の強い要請で婚約を破棄され、17 歳で徳川幕府の第 14 代将軍家茂に嫁いだ。

この降嫁のときに詠んだ歌が、「惜しまじな君と民とのためならば 身は武蔵野の露と消ゆとも」です。この歌に象徴されるように、自らを犠牲にして日本と嫁ぎ先のために貢献した評価が定まり、女性の鑑とされていったのです。島崎藤村の『夜明け前』には和宮の行列が中山道に行く様子が少し描かれています。

家茂死後、静寛院と号し江戸城にとどまり、王政復古にあたり徳川家名存続と江戸城明け渡しなどに尽力。明治 10 年 32 歳で死去。

家茂の死後は静寛院と号し、朝廷は京都に戻るように勧めたのですが、徳川家に嫁いだのだからと江戸を動きませんでした。そして、明治 10 年、保養先の箱根で死去。32 歳の若さでした。

和宮については、薩摩から将軍・家定に嫁入りし、和宮には姑にあたった篤姫（天璋院）との関係が興味深いものですし、有吉佐和子が和宮の替え玉説をもとに『和宮様御留』という小説を書いています。徳川氏の墓所である増上寺の墓地を改葬したときに左手首がなかったことなどを根拠にしましたが、それには異論もあるようです。

和宮は戦前、女子の鑑として、女性教育上で大きく扱われました。ですからお雛様にも「和宮雛」というのがあるぐらいです。**(1)の写真**をご覧ください。これは私が毎週治療に通っている神戸の中央市民病院で最近、見かけたお雛様です。後向きなので緑の黒髪はわかるのですが、顔は見えません。黒髪が長いのは古代では美人の条件だったようですが。その像を学校に寄贈したという中村直吉について、**プリント②の下の説明文**をご覧ください。

1 代で神戸有数の米問屋になり、県会議員などを務めた中村直吉が大正 13 年兵庫実践少年団を結成。……昭和 8 年から神戸市内の公立高女に「和宮像」と「楠木母子像」寄進を推奨。11 年、増上寺と日本女子会館に寄贈。

神戸の中村直吉という人物がその像を寄贈することとなりました。中村は、それまでに二宮金次郎の像を神戸から明石の小学校に寄贈した人物です。金次郎の像は、私自身も小学生の頃、校庭で見た記憶がありますが、有名な金次郎の像が全国的に広まったのは、中村直吉の功績だったと言われています。

ところで、なぜ直吉は和宮像の寄贈を思い付いたのでしょうか。彼は外遊をしたことがあり、その際、西欧の女性たちの質素で勤勉な姿にふれ、日本女性の伝統ある美德保持をいつまでも願って思い付いたということです。このあたりのことは、直吉本人が書いたものでもあればいいのですが。県一と県二、市立第二高女（市二）の 3 校です。ちなみに当時、神戸市内の公立高等女学校はこの 3 校と市一の 4 校でした。

一つずつ見ていきましょう。(4)は市二、のちの市立須磨高校、現在は須磨翔風高校となりましたが、市立第二高女のものでした。当時、市二には中村直吉の娘さんが在学していました。娘のヨネさんは昭和8年卒業とのことですから、銅像が寄贈された昭和9年4月には卒業していました。ですから、厳密にいうと直吉の娘さんの「母校」に寄贈したということになります。市二は、昭和19年に灘区の楠ヶ丘に移転し、戦後その校舎を神戸市外大に譲ることになります。この楠ヶ丘時代の市二に、扇千景さんがおられたようです。像は外大に置かれたままだったのですが、市二の後身、市立須磨高校の新校舎ができたとき高校に引き取るよう要請され、断られたため、昭和40年頃に市立婦人会館に移されました。婦人会館は楠公さんのすぐ西にあります。そこも全館改装のとき処理に困り、昭和57年、市立博物館ができたとき、神戸市のものということで、その地下に収蔵されました。

この写真で、私と比較して和宮像の大きさがわかっていただけたと思います。よく見ると、実際の身長よりも高くなっています。画像処理の作業で、縦方向に少し伸ばした、スマートな体型にしたので、ちょっと画像の改竄です。ただし、私の髪の毛が黒々しているのは、改竄ではありません(笑)。

その隣の(5)の写真は、県二高女、今の夢野台高校のものでした。一ノ谷公園、安徳帝の内裏があったという伝承から「内裏跡公園」といわれている所に安置されています。この写真は平成13年3月に御披露目式があったときに写したものです。なぜ県二のものがここにあるのか不思議です。詳しい経緯は不明ですが、県二も戦後は市立神戸一中、現在の私立葺合高校、との合併騒動があり、中村直吉の知人の塩田富蔵さんがもらってくれることになり、須磨の裏山の邸宅の一角にあったようです。その後、塩田さんの遺族が関心を示さず放置されました。雨風に長くさらされていたために、随分傷んでしまったのですが、小さな公園で屋根がついた小屋のなかに安置されています。一ノ谷町2丁目自治会の手で、そういう風にしてもらい、3体の和宮像のなかでは、傷んではいますが一番幸せな像ではないでしょうか。

(6)が肝心の県一の和宮像の写真です。といっても、残念ながら、像の実物の写真ではありません。県一はご存じのように、現在の県庁1号館に校舎がありました。スチームを備えた大変優れた校舎で、神戸一中の校舎、ということは現在の神高の校舎ですが、それよりも県一の校舎の方が数段よい校舎だったと思います。その校舎の正面玄関の階段をのぼった所にありました。昭和9年4月に除幕式をしています。

ただし戦後、その素晴らしい校舎を県庁に明け渡し、県二に移転させられます。このあたりは、ここにおられる県一卒業生が身を以て経験されており、まさに苦難の時代を過ごされたことは、涙なくしては語れない、あるいは涙なくして聞けない話です。当時、県二に勤めておられた辻井五十鈴先生(県一37回)なども、間借りをした後輩たちの苦労を記録されています。

その後、詳しいことは伝わっていないのですが、県庁に取られてしまった元県一の校舎から古物商に買われていったということです。良心的な人だったために、廃棄されずに、その家の2階のベランダに置いておかれたといわれています。その家の名前もわかっていますが、公には不詳だということになっています。このあたりにそのお宅があるということで、写真を載せておきました。

私は、県一100周年、神高としては105年でしたが、の記念事業として、その像を手に入れて、学校に飾ればよいと思いましたが、実現しませんでした。芸術館の2階のロビーにでも安置すれば、全国でも珍しい記念物になったと思います。

③ 下村湖人のみた神戸一中

最後に「下村湖人のみた神戸一中」というテーマでお話しします。アンケートの得票では17票で2位がカーキ色の制服秘話が11票、3位が「質素剛健」の寄贈者が9票でした。

下村湖人は、『次郎物語』の著者として知られています。明治17年に佐賀県で生まれ、東京帝大の英文科を出て母校の佐賀中学校に勤務し、その後唐津中学校教頭、鹿島中学校校長などを勤

め台湾の台北高校校長を辞任したあと、昭和 11 年から『次郎物語』の執筆に入りました。彼は教育者として活躍した人でもあります。**プリント③**をご覧ください、

その唐津中学校の時代に、西日本の中学校 6 校を訪問し、その報告書を残しているのです。この報告書、正式には「学事視察復命書」ですが、学校に帰ってから校長あてに出した書類です。実物が本校に残っている訳ではなく、佐賀大学の先生がご覧になって、私あてにコピーを届けて下さったのです。11 枚を袋綴じした文書で、6 校を比較して書いてありますので、とてもわかりやすく興味深い史料だといえます。

大正 8 年 11 月 23 日に佐賀を出発し、翌 24 日には岡山中学校、25 日に神戸一中、26 日に神戸二中、27 日には広島県の呉中学校、28 日に同じく広島県の広島中学校、29 日に広島高等師範学校付属中学校と視察し 11 月 30 日に帰校しています。7 泊 8 日、毎日 1 校ずつ視察しておりますから、駆足視察ではなく、じっくり実態を見ることができたといえます。

復命書では 16 項目についてまとめています。ありがたいことに、神戸一中のことは割と書いてくれていますので、その頃の状態がよくわかります。

1 の「教授一般」では広島高師付属以外はそれぞれの先生が各自の教授法で授業をしている、広島高師付属だけが自分のところで作った教科書を使って画一的な授業をしている、ともに一長一短あるが、自分は前者の方がよいと思うと述べています。

2 は新入生の入学試験についてですが、省略します。

3 の「成績考査に関する件」は、「最も頻繁なるは第一神戸中学校にして、毎週一回は必ずこれを行ひ問題はすべて応用問題なる由なり」と書いています。

4 はいわゆる上級学校への受験対策についてです。「第一神戸中学校が、英語数学の中一日一時間宛第五学年生に対し予科を課する外」どの学校も全然予備授業をやっていないと書き、これは自分としては意外だったとしています。

5 は省略します。

6 は修身の授業についてです。呉中学校では校長が 4・5 年生の授業を担当していたようですが、一中でも池田多助校長時代には校長が修身を担当していたようです。現代でも小学校で、道徳が教科になり教科書が検定されたとのニュースが流れていました。教科になれば、評価もせねばならず、これから担任の先生は大変だと思います。

7 は学級編成法についてです。要するに学力を平均にするか、学力別でクラス編成をするかということです。湖人は、6 校すべてで学力別ではなかった、「小職の寧ろ意外とする所にして甚だ愉快とする所なりき」と報告しています。そして、自尊心のある青年時代に学力別のクラス編成をするのは、彼等の精神上よくないと書いています。

8 は学級主任、いわゆる学級担任のことで、プリントを読んでもみます。どの学校も、5 年生まで持ち上がりで担任が責任を負っている、「殊に第一神戸中学校に於ては、全々生徒の進退をすら左右し、校長は事件に際し学級主任の意見を聴取するも、其処置に到りては殆ど主任の意見に委するの風あり」、鶴崎校長は学級担任の意見を最大限尊重したということになります。その次に、学級の当番日誌に触れていますが、他の学校ではそんな日誌はなかったのでしょうか。それと、もし一中の日誌が残っておれば、大変貴重な史料になるはずですが。今までに寄宿舍の日記は見たことがあるのですが、学級日誌は見たことがありません。

9 は家庭との連携についてです。どの学校も家庭訪問は行っていない、というのは、家庭訪問は極めて頻繁に行わなければ効果がなく、頻繁に訪問するのは不可能だからと書いています。「右の外、第二神戸中学校に於ては、家庭学校相互よりの通信簿を有し、第一神戸中学校に於ては家庭より学校に対する諸届に使用する帳簿を有せり。……第一神戸中学校に於ては、父兄中自ら進んで学校を訪問し、生徒の状況を視察する者極めて多き由、羨望に堪えず」とほめています。

10 は処罰についてです。「第二神戸中学校に於ては、罰名は用ひざるも登校を差止めて自宅に於て反省せしめ、若は課業後学校に留置にて謹慎せしむるの方法を採れり。第一神戸中学校は、罰のみならず賞もこれを行はざる方針なりと」

11 は落第に関してで、このプリントに取り上げたのが全文です。「第一神戸中学校が八百定員に

対して、僅かに二十名内外の落第生を出すは頗る注目に値す。この結果を収めんがために、該校にては成績不良の生徒に対しては、特に規定外の試験を行ひ補充点を与ふる由なり」。20名内外でも他校と比べて僅かだと言っています。20名内外ということは、1学年4～5名が落第したことになります。

一中の創設期、1回生は21名が入り卒業したのはその半分の10名でした。2回生は103人が入学し32名が卒業しています。この頃と比べると、かなり緩くなって、大正8年の春卒業した20回生は150名が入学し115名が卒業しています。単純計算で35名が途中で脱落しています。学年が1つ上がるごとに7名が落ちていった勘定になりますが、多くは病気が原因で亡くなったり退学した時代ですから、純粋な落第というのは1学年4～5人ではなかったでしょうか。他校の様子を湖人が書いてくれておれば、比較ができるのですが。

12の寄宿舎に関して、神戸一中と二中には交通の便がよく寄宿舎はなかったのですが、ほかの4校には寄宿舎がありました。

13から15は省略します。

16は「各校の気風に関する件」で、湖人が6校について概評を書いています。青字のところは後回しにして、まず二中について次のように書いています。「第二神戸中学校、愛校心の盛なるは第一神戸中学校と同様なるも、先進を有すること多からず。且校長の更迭も頻繁なりしたため、未だ校風の中心を有せざるが如し。第一神戸中学校に対して、稍焦り気味あり。気風は都会地の学校としては、やや粗野なり。」面白いのは、都会の学校だがやや粗野であるということです。今では、それ程でもないでしょうが、私の在学中の雰囲気はそうでした。神戸が慶應だとすれば、兵庫は早稲田という感じでしたが、それが旧制時代にもあったというのは、面白いことです。

そして、6校全体の感想を述べています。「要するに、各中学校共相當に緊張し、……されど何れの学校に於ても受験準備教育と高等普通教育との両者を兼ね行はざるべからざる矛盾に陥り、此の間異常の煩悶をなしつつありしは、明かに觀察せられたり。」

最後に神戸一中について、後回しにした青字の部分を読んでみます。「第一神戸中学校、先進との連絡極めて緊密にして、在校生は先進に対する面目を重んずるの風あり。愛校心盛にして団結力旺盛なり。而して都会地の学校としては軽跳の風なし。今回視察せる六校中、学業風紀、最も可なりと認む。」

以上、西日本の6校、大阪湾・瀬戸内海沿いの6校ですが、一番よいのは神戸一中であると言っています。もちろん、他にも中学校もたくさんありますし、それらをすべて視察した訳ではありません。しかし、現場に身を置く教育者としての下村湖人の評価ですから、客観的な評価だと言ってよいでしょう。

私は高校17回生で、一中36回生の高山忠雄先生の校長時代の最後でした。我々の卒業と同時に、高山先生も校長を退かれて三浦欣一校長になったのです。高山先生は、日本だけでなく世界の学校を見ておられましたが、「これは立派な学校だ、教育方針もいい学校だと思うけれども、いざその学校の門を出る時には、この学校もいいけれども、神戸高校はこの学校よりおそらくいいな」という気持ちになったと書いておられます。その高山先生が、今日、ご紹介した下村湖人の報告書をお知りになったら、きっと「そりゃ、そうだろう」と喜ばれたに違いありません。

本日は、お伝えしたい校史上のごくわずかの情報しか、お話しできませんでした。聞いてやろうという方がおられれば、いつでもどこでもたとえ数名の方にも、喜んでお話しいたします。ただし健康の許す限りですが、それはシニアクラブではお互い様ということでしょうか。

拙い話でしたが、ご清聴ありがとうございました。

(2017/5/15 補訂)

① 神高校舎南壁のライオン

1)-1 神高校舎南壁のライオン



1)-2



2) 現高知小津高校のライオン

神高の新聞委員会発行「神戸高校新聞」昭和 24 年 11 月 22 日号(第 2 面)の他校新聞の紹介欄。城北高校校舎入口にもライオンの水道口があった。3 階からそこまで飲み水を求めて往復するのは酷だから各階につくってほしいという城北高校の生徒の声を紹介し、「校舎内にふえるライオンににらまれてはおちおち勉強もできますまい」と結んでいる。

3) 長田高校正門北のライオン



4)-1 J R新宿駅東口広場の馬水槽



4)-2 馬水槽のライオン



馬水槽の説明板(抜粋)

東京の上水道育ての親、中島鋭司博士が明治 34 年から欧米諸国を視察した際、ロンドン水槽協会から東京市に寄贈。現在では世界に 3 つしかない。上部は馬用、下部は犬猫用。昭和 39 年の新宿駅完成で現在地に。昭和 61 年、新宿区指定有形文化財。

② 県一の和宮像の変遷

皇女和宮（静寛院宮）は、仁孝天皇の第8皇女で孝明天皇の妹。6歳で有栖川熾仁親王（別荘が後の舞子ビラ）と婚約。しかし幕末、朝廷と幕府の関係を改善し国論を統一せしめるため、幕府の強い要請で婚約を破棄され、17歳で徳川幕府の第14代将軍家茂に嫁いだ。家茂死後、静寛院と号し江戸城にとどまり、王政復古にあたり徳川家名存続と江戸城明け渡しなどに尽力。明治10年32歳で死去。

惜しまじな君と民とのためならば 身は武蔵野の露と消ゆとも

※ 篤姫（天璋院）と和宮、島崎藤村『夜明け前』、有吉佐和子の和宮替え玉説、

1代で神戸有数の米問屋になり、県会議員などを務めた中村直吉が大正13年兵庫実践少年団を結成。二宮金次郎像を神戸・明石の小学校へ寄贈する活動を展開（全国の金次郎像建立ブームに）。昭和2年、和宮50回忌に静寛院宮奉賛会が発足し、同会に参画。昭和8年から神戸市内の公立高女に「和宮像」と「楠木母子像」寄進を推奨。11年、増上寺と日本女子会館に寄贈。

1) 「麗しの皇女和宮」雛



2) 芝・増上寺（徳川氏廟所）



3) 日本女子会館（模刻像）



4) 市二高女（須磨高）
→市立博物館



5) 県二高女（夢野台高）

→須磨一ノ谷・内裏跡公園



6) 県一高女（神高）

???



③ 下村湖人のみた神戸一中

大正八年 佐賀県立唐津中学校から兵庫・岡山・広島三県、学事視察復命書

- 第一日 (十一月廿三日) 任地より岡山市迄旅行
- 第二日 (十一月廿四日) 岡山県立岡山中学校 (岡山一中など) 岡山朝日高 神戸へ
- 第三日 (十一月廿五日) 兵庫県立第一神戸中学校
- 第四日 (十一月廿六日) 兵庫県立第二神戸中学校、呉市まで旅行
- 第五日 (十一月廿七日) 広島県立呉中学校 (呉一中など) 呉三津田高、広島へ
- 第六日 (十一月廿八日) 広島県立広島中学校 (広島一中) 広島国泰寺高
- 第七日 (十一月廿九日) 広島高等師範学校附属中学校 (広島大学付属中高)
- 第八日 (十一月卅日) 広島市より帰還

(註) 復命を受けた上司がつけたと思われる傍線・傍点は実線・破線で表示した。
一、教授一般に関する件

二、初年級生徒選抜に関する件

三、成績考査に関する件

：最も頻繁なるは第一神戸中学校にして、毎週一回は必ずこれを行ひ問題はすべて応用問題なる由なり。

四、高等程度諸学校、志望者予備授業に関する件

第一神戸中学校が、英語数学の中日一時間宛第五学年生に対し予科を課する外、何れの学校も全々予備授業を行はず。こは寧ろ小職の案外に感じた所なりき。：

五、学科の配当及教科書に関する件

六、修身教授に関する件

七、学級編成法に関する件

八、学級主任に関する件

学校により各学級に専任一名を置く、各学年に数名の共同主任を置くとの差あるも、何れも一年より五年まで持上りとし、学級に対して殆ど一切の責任を負へるは同一なり。殊に第一神戸中学校に於ては、全々生徒の進退をすら左右し、校長は事件に際し学級主任の意見を聴取するも、其処置に至りては殆ど主任の意見に委するの風あり。：

尚第一神戸中学校に於ては、当番日誌を設けて生徒をして毎日其の組に関する細大の事件を記述せしめ、且学校に對する感想希望をも記さしむることとし、主任これを検閲し、以て生徒の個性を知るの一助とせり

九、家庭との交渉に関する件

学校側より生徒の家庭若くは下宿を訪問するは、各校とも殆んど絶無の状況にして、事細大となく必要あるときは、父兄を学校に召喚する方法を採れり。：

右の外、第二神戸中学校に於ては、家庭学校相互よりの通信簿を有し、第一神戸中学校に於ては家庭より学校に對する諸届に使用する帳簿を有せり。：

第一神戸中学校に於ては、父兄中自ら進んで学校を訪問し、生徒の状況を視察する者極めて多き由、羨望に堪えず。

一〇、処罰に関する件

：但、第二神戸中学校に於ては、罰名は用ひざるも登校を差止めて自宅に於て反省せしめ、若は課後学校に留置にて謹慎せしむるの方法を採れり。

第一神戸中学校は、罰のみならず賞もこれを行はざる方針なりと。

一一、落第に関する件

第一神戸中学校が八百定員に對して、僅かに二十名内外の落第生を出すは頗る注目値す。この結果を収めんがために、該校にては成績不良の生徒に對しては、特に規定外の試験を行ひ補充点を与ふる由なり。

一二、寄宿舎に関する件

第一第二神戸中学校は交通便利なるため、寄宿舎を有せず。：

一三、運動に関する件

一四、表簿に関する件

一五、服制に関する件

一六、各校の気風に関する件

第一神戸中学校、先進との連絡極めて緊密にして、在校生は先進に對する面目を重んずるの風あり。愛校心盛にして団結力旺盛なり。而して都会地の学校としては輕跳の風なし。今回視察せる六校中、学業風紀、最も可なりと認む。

第二神戸中学校、愛校心の盛なるは第一神戸中学校と同様なるも、先進を有すること多からず。且校長の更迭も頻繁なりしたため、未だ校風の中心を有せざるが如し。

第一神戸中学校に對して、稍焦り気味あり。気風は都会地の学校としては、やや粗野なり。：

要するに、各中学校共相當に緊張し、学業の成績も全国の中学校中、比較的優秀のもののみなりき。されど何れの学校に於ても受験準備教育と高等普通教育との両者を兼ね行はざるべからざる矛盾に陥り、此の間異常の煩悶をなしつつありしは、明かに觀察せられたり。：

連載 神戸秘話 ①

神戸の音楽界の父、
田中銀之助

文・瀬戸本 淳 建築家



瀬戸本 淳（せともと じゅん）

株式会社瀬戸本淳建築研究室 代表取締役

1947年神戸生まれ。一級建築士・APEC アーキテクト。神戸大学工学部建築学科卒業後、1977年瀬戸本淳建築研究室を開設。以来住まいを中心に、世良美術館・月光閣調音館など、様々な建築を手がけている。神戸市建築文化賞、兵庫県さわやか街づくり賞、神戸市文化活動功労賞、兵庫県まちづくり功労表彰、姫路市都市景観賞、西宮市都市景観賞などを受賞

18

神戸は音楽家が多い街だ。人口150万の都市にしてはたくさん、音楽家が活躍し、レベルも高い。

田中銀之助はそんな神戸の音楽界の父ともいえる人物だ。明治13年（1880）、養父郡大蔵村（現在の朝来市和田山町）の雑貨商「やまとや」の長男として生まれ、大蔵小学校高等科を卒業後同小学校の教員などをしていたが、後に退職して明治35年（1902）、東京

音楽学校（現在の東京藝術大学）師範科へ入学した。

田中が神戸にやって来るのは、音楽学校を卒業した直後の明治38年（1905）のこと。音楽教員として兵庫県立神戸高等女学校（現在の神戸高校）に着任し、その後33年勤務した。

当時、神戸高等女学校は開校4年目の新しい学校で、現在の兵庫県庁1号館の場所にあったそうだ。彼は生徒への指導

はもちろん、音楽教育や社会音楽の向上も常々考えていたが、生徒たちにとって発表の場となり、一般市民に音楽に親しんでもらえる場にもなる発表会を企画した。そのはじめは明治40年（1907）頃で、いつしか紀元節の日（2月11日）に定期的に開催されるようになった。

コーラスやピアノ、バイオリンなど本格的な西洋音楽が演奏されたこの発表会は、その後のさ

まざまな音楽会のルーツとなった。そして、この舞台をステップとして、さまざまな音楽家が羽ばたいていった。日本を代表するソプラノ歌手の市来崎のり子もその一人で、彼女の薫陶を受けた松本幸三、その子息の松本薫平と、銀之助から続く系譜は今も神戸に息づいている。

田中が神戸高等女学校を退職した昭和12年（1937）にこの発表会を受け継いだ八木真平は音楽教育に尽力した人物。県立第二神戸中学校（現在の神戸高校）をはじめ甲南女子高校・短大、親和女子大学、神戸大和女子短大などで教鞭を執り、音楽教育界を牽引するとともに『兵庫の音楽史』など

の著作を残した。

田中は明治4年（1915）に大阪音楽学校（現在の大阪音大）を創設した永井幸次とも親しく、同校の指導者も兼務していたようだ。2人の共著『女子音楽教科書』は広く愛用されたという。

田中は大阪に入ると作曲活動にも力を入れるようになったようだ。「おたまじやくし」など郷愁を誘う童謡を生み出し、荒城の月の編曲もおこなった。また、勤務していた神戸高等女学校の校歌をはじめ、神戸を中心に数々の校歌も作曲している。神戸市立の小学校では福住小、神田小、板宿小のほか、現在廃校になった北野小、入江小、

下山手小、鶴越小、湊山小、志里池小の校歌を作曲。育英高校や武庫川女子大などの校歌も彼の手によるものだ。

彼が最後に作曲したのは、母校の大蔵小学校の校歌だったという。昭和22年（1947）に疎開先の郷里で没したが、彼の魂はその後も多くの音楽家に受け継がれ、神戸で活躍する音楽家の多くは少なからず田中銀之助の流れを継いでいる。ひとつの音の波紋が広がり、時間や空間を超え楽曲となっていくように……

兵庫県立神戸高等学校校友会発行の『鵬友』などを参考にしました。



田中 銀之助（たなか ぎんのすけ）

作曲家

明治13（1880）年、朝来郡和田山町高田の旧家の長男として生まれ、東京音楽学校（現・東京芸術大音楽学部）を卒業後、兵庫県立高等女学校（後の県一高女・現神戸高校）教諭として勤務。明治42年には、後の大阪音楽大学学長、永井幸次氏との共著『女子音楽教科書』を刊行し、その本は全国の高等女学校で使われた。育英高校の校歌、武庫川女子大学校歌、神戸市歌等。戦争末期、実家の高田に疎開した銀之助は、昭和22年母校の大蔵小学校の校歌を書き上げた直後、亡くなった

写真提供／田中富友堂

神戸大和女子短大 ↓ 神戸山手女子短大